令和５年度 第 ３ 号　　２０２３.９月発行

愛護センターだより

発行：敦賀市少年愛護センター
住所：敦賀市東洋町１番１号
電話：0770-23-0189　Fax：0770-23-0523
『青少年健全育成都市宣言』都市：敦賀市

高校での探究経験、大学では…

高校で探究活動が盛んに取り組まれているニュースをよく目にするようになりました。その探究活動について、「力を入れて取り組むのはマイナスになることはないとしても、学力はどうなっているんだろう？」と考える人もいるようです。

その探究活動に関わる調査をしている大阪大学の山下仁司教授は、「高校で取り組んだ探究の成果を、書類審査、面接で評価する入試制度を導入する大学が多くなってきている」「全国の大学入試の現状では、国立で約17%、公立で29%、私立大で57%の学生が書類・面接等の評価を伴う総合型・学校推薦型入試で入学している」「高校時代の探究の成果は、活動記録と共に合否を決める材料になってきている」と話しています。

また、大学入学後の学習に関して、大阪大学の理系･文系の学生434人を対象に調査した結果も2022年9月に発表しています。その結果は「高校での探究学習経験者は大学入学後、学習に主体的で、分からないことに粘り強く取り組む」ため、

〇課題･テーマに関して、事例や経験などから、法則性を見いだしたり仮説を形成する
〇研究・実験の方法・計画を立てる
〇自分なりの方法を検討し追究する
〇指導教員や周囲の人と話し合ったり、相談をする
〇レポート・論文の構成を考える
〇自分で検討したアプローチについて、俯瞰的･客観的な視点で再考してみる

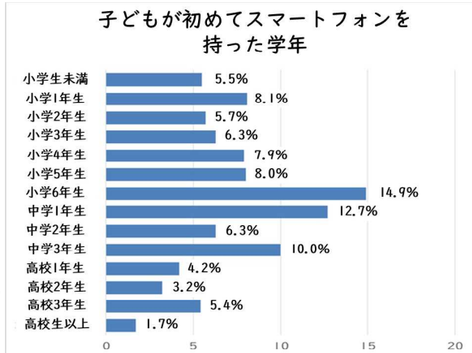
などの項目で探究学習未経験者よりも「研究における自主性・自立性が非常に高い」という評価となったようです。

探究学習は、生徒自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集、分析し、協働しながら進める学習活動。「何を学びたいのかを考える探究活動は、大学で何を目指すのかにつながり、進路指導面でも役に立つ」と話しています。また、「主体性や積極性は、高校の探究経験が大学で生かされている傾向にある」とのことです。

実際に、大学４年間の成績評価では、「探究経験あり」の学生が、文系、理系とも４年間を通して高かったそう。学ぶ目的意識や知的好奇心の高さが反映した結果と考えられるので、高校の探究活動で身についた学ぶ姿勢は、高校卒業後も自身の成長にかなりプラスになっているようです。

そして、この力は、まわりの人と協力してこれまでに経験したことのない社会の変化を切り拓いていくために必要な力でもあります。子ども達の将来のためにも、充実した活動ができるよう支援していきたいものです。

スマホデビュー



今年の1月、ＭＭＤ研究所が「初めてスマートフォンを持つ子どもと親への意識調査」という調査データを公開しました。

これによると、初めてスマートフォンを所有する年齢は小学6年生が最多。10数年前は高校入学時が最多でしたから、ずいぶん早く所有するようになったということになります。「中学生ではスマホが必要になるから、その前に…」ということでしょうか。

「スマホを持っている子の半数以上（56.4%）は小学生で所有」となると気になるのが、スマートフォンを所有してからのトラブル。

スマートフォンを持っている子の20.1%（小学生では26.8%、中学生で13.8%、高校生で10.0%）がトラブルに巻き込まれた経験をしているようです。また、トラブルは年々増加傾向にあって、前年と比較しても3.9ポイント増加しているということで、「安心して持たせられる」という状況ではありません。

トラブルの内容は、

〇ゲームや有料課金サイトで大幅に課金してしまった　……14.9%
〇LINEなどのＳＮＳで既読無視されて、友人と険悪になってしまった　……14.9%
〇不適切な写真を送るように言われたり、意思と関係なく送られてきたりした…14.9%
〇暴力的・わいせつな画像や動画をみてしまった　……12.9%
〇ＳＮＳやメールなどで繋がってしまった人から執拗に会うことを迫られた……12.4%

などが多いようです。

また、3月9日警察庁が2022年全国の児童ポルノ事件摘発件数は3035件（前年比66件増）で、被害に遭った18歳未満の児童は1487人（29人増）、中高生が約8割を占めると発表しています。被害状況別では、だまされたり脅されたりして自撮りの裸画像をＳＮＳなどで送信させられるケースが約4割。ＳＮＳをきっかけとして犯罪被害に遭った児童が1732人にもなり、誘拐などの重要犯罪の被害児童は158人で増加傾向となっているそうです。

さらに、スマホ決済・キャッシュレス化が一層進む状況ですので、お金の使い方についても今以上に子どもに考えさせなければならなくなります。

手放しで子どもにスマートフォンを使わせるのは危険です。我が子を被害に遭わせたくないし、トラブルに巻き込ませたくない。でも、怖がってばかりで、使用させないわけにもいかない時代です。子どもが初めて自転車に乗るときに、危なっかしいハンドル操作にヒヤヒヤしながら練習に付き合い、交通事故に遭わないようにいろいろと子どもに安全について話をしたように、スマホについても最初から安心した使い方はできそうもありませんから、家庭内でしっかりとした話し合いが必要です。

言霊

今年のＷＢＣで優勝した日本代表「侍ジャパン」。その立役者の一人である大谷翔平選手（ｴﾝｾﾞﾙｽ）の活躍は周知の通り。大谷選手はプレー以外の場面でも賞賛されており、大変人気のあるスポーツ選手の一人です。

大谷選手は「いろんな本を読んだ方が、多くの視点を得られ、自分で決めるのもうまくなる」と考える大変な読書家。さらに「1回読んだだけでは得られるものは30～40%。何回も読むことでもっと違う捉え方ができる」と精読の大切さも感じているそうです。そうしていろいろな書物との出会いの中で「積極的に生きる」という考え方に触れ、常に前向きな発言で、ネガティブなことを言わない姿勢が身についたようです。

だから、大谷選手は花巻東高校時代から自分自身の将来について悲観的な言葉を口にしたことは一度もないそうです。周りの人が驚くような目標を、臆することなく公言し、それを達成してきたそう。それも、さらりと自然に。

だから、大谷選手が活躍できている要因の一つに「言葉の力」が挙げられています。

ＷＢＣ2023の準決勝の日本対メキシコ戦は、１点を追う９回の先頭打者である大谷選手が二塁打で出塁し、村上宗隆選手の一打で逆転勝利となった大変印象に残る試合でした。

その試合後のインタビューで、大谷選手は「必ず塁に出ると自分で決めていた」と話しています。「決めていたら、それが現実できるのか！」と言いたいところですが、これまでの彼の言動から「大谷選手なら…」と納得してしまいます。『意志の力』や『それを可能にさせる取組』に感心すると同時に、『言葉』が『行動に及ぼす力』の大きさに驚くばかりです。

日本には古くから「言霊」という考え方がありました。言葉には霊力が宿り、良い言葉を発すれば本当に良いことが起こり、逆に不吉な言葉は災いをもたらす…というもの。ちょっとオカルトチックな考え方ですが、最新の脳科学で『言葉が行動に及ぼす力』は深い関係があり、言葉が人の行動の成否を左右しているという証明もされています。

スポーツの現場でもイメージトレーニングが大切であることは言われてきました。しかし、人は頭の中で思い描いているイメージするだけよりも、口から言葉を発した方が強く影響する…ということがわかってきました。たとえば、頭で成功のイメージを描いていても、ふと不安になり「ヤバい、もうダメ」とつぶやいてしまえば、脳は一気に上書きされてしまう…という感じです。不安な発言がよいイメージを壊し、パフォーマンスに影響、望む結果を得られなくなってしまう…わけです。

子どもが「なりたい自分」に近づくためには、前向きな言葉を発した方がプラスになるようです。大谷選手級の活躍は難しいですが、子ども達が積極的に発言できるような環境作りをしていきましょう。

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

青少年への愛のひと声活動……補導日誌から

○６月16日（金）15:00～　初めての補導でコースの確認をする2時間でした。今まで知らなかった場所への訪問は少しドキドキでした。アル・プラザ敦賀ゲームセンターの店長さん、ＵＳＡ ＡＲＥＮＡやちえなみきの従業員さん、各巡視先では補導員に協力的でうれしく思いました。自分の子どもの頃とは遊びも行き場も違い、戸惑いもありますが、時代についていくしかないのかと痛感しました。

○６月26日（月）19:00～　アル・プラザ敦賀6階で「お父さんを待っている」という女の子（福井市から来ているとのこと）が一人。話をしている内におかしな点があったので、一度店内を巡視した後、もう一度見に行くとまだ一人でいた。警備員に話をすると、夕方お父さんと買い物をしていたことを認識しており、ゲームコーナーの店員さんもこれまで何回かこの親子を見ていて、お父さんと帰宅したのを確認しているとのことでした。閉店間際でしたので、警備員さんに託して次の巡視へ向かいました。こういう場合はどうしたらよいか、お父さんが来るまで待っていた方がよいか、対処方法を教えてもらえるとありがたいです。

→先日の喫煙への言葉かけもそうですが、補導員は万能ではありませんし、解決のための権限も持ち合わせていません。店内のことであれば、この例のように店側に報告するのがベストだと思います。ケースによっては警察や消防、児童相談所への連絡が必要となる場合も考えられます。補導員として問題解決のための機関への橋渡しができれば十分です。補導活動として各地点を回っている大人がいるということ自体が子どもの安心･安全に大きく貢献しています。

○８月３日（木）15:00～　ちえなみきでは昼頃、男子中学生7～8名が目の届かない場所でイスを移動させ、スマホでゲームをしたり、本のカバーを外したり、本の位置を変えたりしていたそうだ。あまりにもマナーが悪いので、出て行ってもらったが「死ね」と悪態をつかれたという。また、ちえなみきの2階で、中1男子3名が、夏休み中の宿題をしていた。クーラーのきいた場所での勉強ははかどるのか集中していた。

○８月３日（木）17:00～　アルプラザ6階駐車場で、男女8名の若い子達が集まっており、その内2名が喫煙している様子だったので声をかけた。声かけに動じる様子はなく、喫煙している2人は働いていると言っていたが、集まっていた8人の中には学生もいたように思う。その後、男女6名は店内へ行き、私たちを避けるように奥へ入って行った。このことを警備員に伝え、不適切な言動があれば対応するようにお願いしておいた。

○８月12日（土）15:10～　ちえなみきから高校生による迷惑行為についての話が補導員にあり、愛護センターから各高校へ連絡したことを店員さんに伝えました。子ども達は、自分達の自由な遊び場所ではないことを肝に銘じ、マナーを守って有効に利用してもらいたい。

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡